

1. 研究主題

学びを楽しむ子の育成 ～わかった！できた！伝えたい！が生まれる授業づくり～

2. 主題設定の理由

本校では、一昨年度から、「学びを楽しむ子の育成」を主題に学校研究に取り組んできた。学びの原動力を与える授業を目指し、昨年度は、国語科の書くこと教材を中心に「見通し」、「つながり」、「達成感・有用感」の3つの柱を軸に、授業設計の工夫を行ってきた。

その結果、教師間だけでなく、教師 - 児童間において国語科の授業づくりの流れが定着し、見通しを持って主体的に学習に取り組む児童の姿が見られるようになってきた。また、既習や他教科との学習を関連づけた言語活動を設定したことで、児童自身が学習のつながりに気付く姿も見られるようになってきた。

しかし、その一方で、自分の思いや考えを表現することについて難しさを感じたり、表現すること自体に消極的であったりと、表現活動における児童の主体的な姿に課題が残った。

そこで、今年度は、表現力の向上に重点を置き、自分の考えや思いを表現することにおける「学びを楽しむ児童の姿」を以下の通りに具体的に設定し、教師間だけでなく、教師 - 児童間において共有する。

- 1) 見通しが持て、言語活動に対して意欲が湧く姿
- 2) 相手意識をもち、よりよく伝えようと粘り強く取り組み、学びのつながりを求める姿
- 3) わかったことやできるようになったことを生かして、自分の思いや考えを進んで発信していくとする姿

また、今年度も全ての学習の基盤となる言語能力の育成を図るために、その核となる国語科を中心に研究を進めていくこととする。

以上より、今年度も、学びの楽しさを生む授業設計を軸に授業改善に取り組み、児童の主体的な学びの姿を表現力の向上という視点も入れて深化させていきたいと考え、本主題を設定した。

3. めざす児童の学びの姿

- 主体的に学びに向かう子
- 学びをつなぐ子
- 考えや思いをよりよく表現する子

	低学年	中学年	高学年
話すこと・聞くこと	相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える。 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容をとらえて感想をもつ。	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える。 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつ。	話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える。 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる。
書くこと	考えや思いを順序よく表現する。	考えや理由、事例の関係を明確にして表現する	事実と感想を区別しながら考えや思いを表現する
読むこと	文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ	文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつ	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる

4. 主な研究内容

(1) 学ぶ楽しさを生む授業設計

◇見通しを持たせる

- ・言語活動における相手・目的・場面・状況の明確化
- ・段階的な学習過程の設定
- ・学習計画の設定・明示・共有

◇つながりを生む

- ・言葉の宝箱の活用と学習用語の積み上げ
- ・既習との関連づけ
- ・他教科と関連付けた言語活動の設定や必要感のある言語活動の設定

◇学習の達成感・有用感を味わわせる

- ・指導事項に基づく「つけたい力」の見極めと言語活動の設定
- ・単元末の自己評価
- ・評価の視点の明確化と児童の学びの見取り
- ・国語科でつけた力を他教科に生かす (いしかわ学びの指針12か条+ 1～6条)

【学習を支える基盤づくりとして取り組むこと】

① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着

- ・学習習慣・学習規律の徹底
- ・学期末・学年末漢字計算テスト、パワーアップタイムの計画的実施
- ・活用問題の実施 (いしかわ学びの指針12か条+ 8条)

② 家庭との連携

- ・家庭学習の手引き作成及び活用
- ・家庭学習強化週間(学期1回) (いしかわ学びの指針12か条+ 9・12条)

③ 良好な人間関係の育成

- ・生徒指導の視点に立った授業づくり(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)
- ・認め合い、高め合える学級づくり
- ・心と体の基盤づくり (いしかわ学びの指針12か条+ 6・8条)

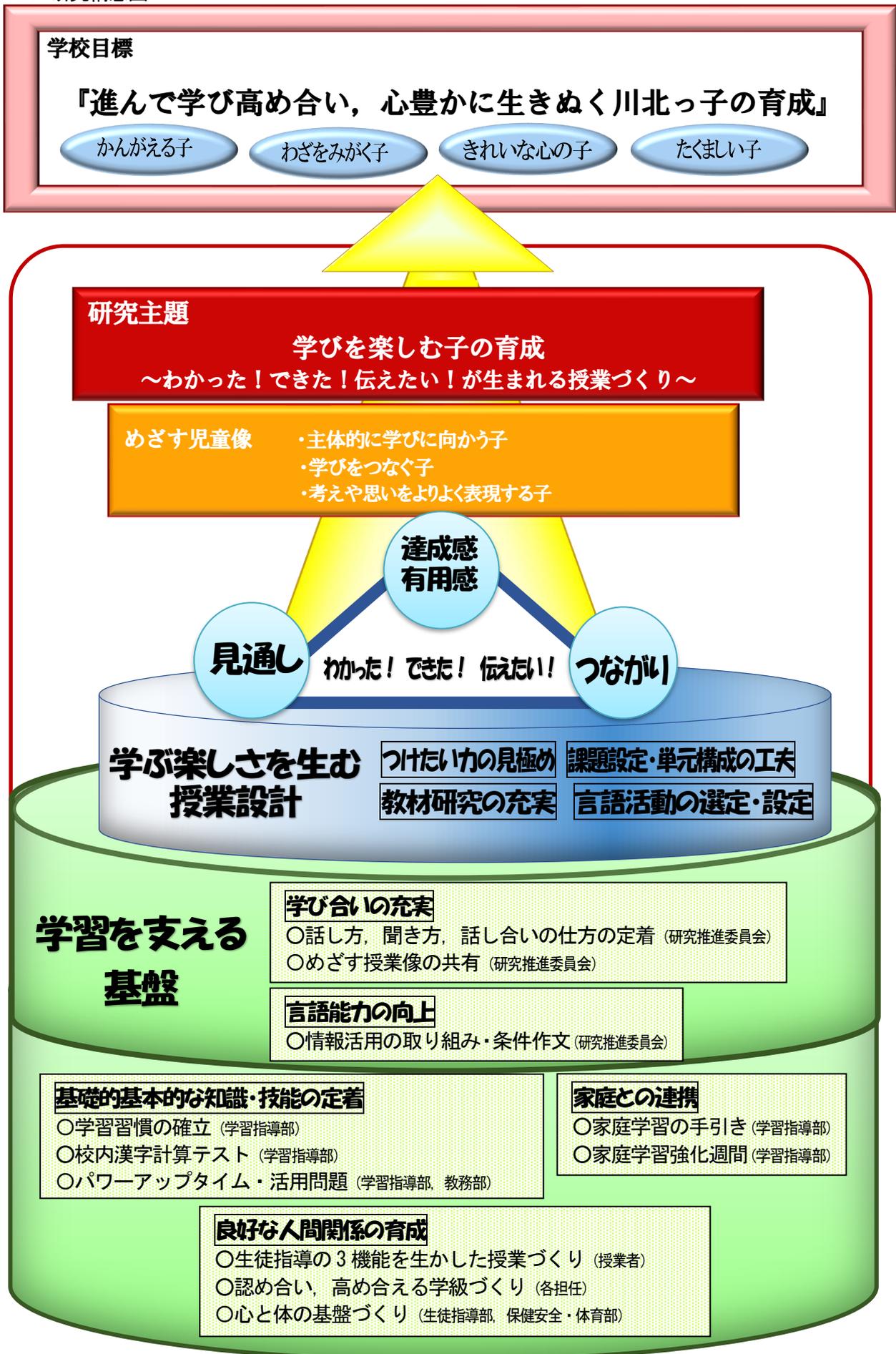
④ 学び合い学習の充実

- ・「聴き方」「話し方」「話し合い」についての段階的な指導の充実
- ・めざす授業像の作成と共有
- ・授業力向上を目指した日常的な授業改善
- ・主体的な問題解決につながる効果的なICTの活用 (いしかわ学びの指針12か条+ 7・10・11条)

⑤ 言語能力の向上

- ・情報活用の取組と言葉の掲示板
- ・条件作文の取組 (いしかわ学びの指針12か条+ 3・5条)

5. 研究構想図



6. 研究の進め方

①国語科を中心とする授業研究

授業実践を重視し、授業の中で児童が自分の考えをもち、よりよく表現し、学び合う姿が見えるような授業づくりに取り組む。また、互いの授業を参観し合い、授業研究会での意見交換を通し、研究主題に迫る方策を探る。

②校内研究について

- ・低学年部会，中学年部会，高学年部会、特学部会の3つの部会を組織し，研究を深める。
- ・計画訪問、要請訪問にて研究授業を行う。

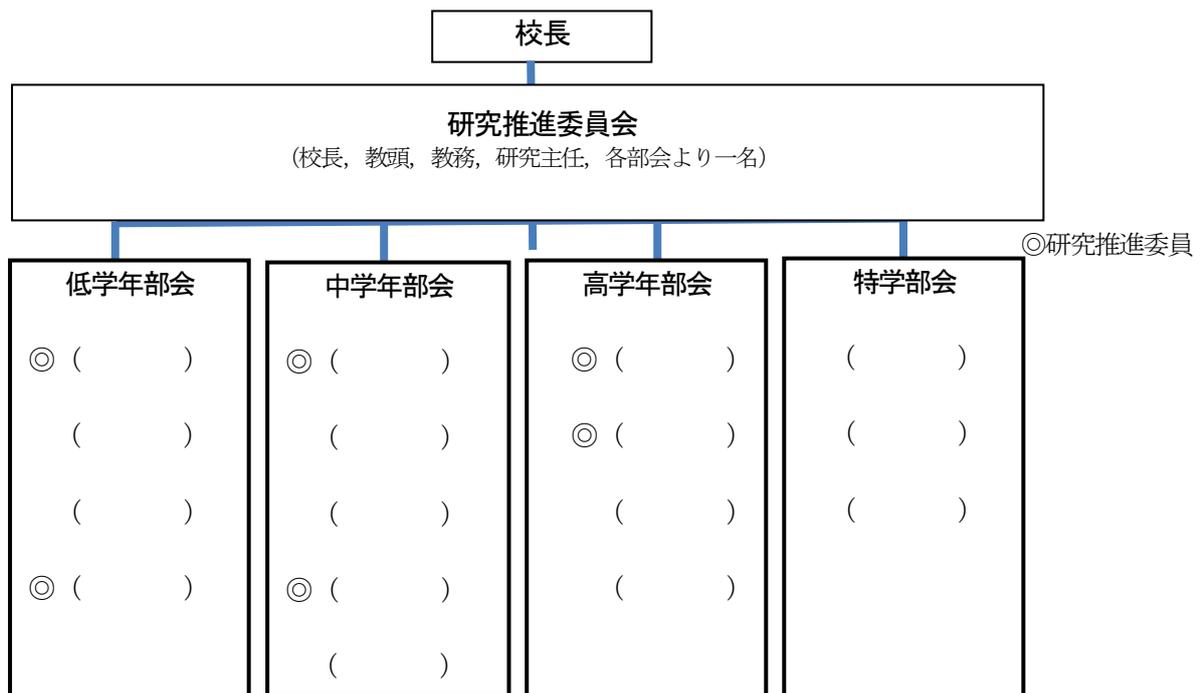
全体での研究授業・・・計画訪問、要請訪問の2回の研究授業
 全体での研究授業以外・・・授業交流（部会内外での授業参観）

- ・研究授業については，各部会の研究推進委員を中心にして，部会で事前に指導案の共同立案及び検討会を持ち，全員で意見を出し合って授業を作り上げていく。
- ・全体研究授業については，模擬授業などの形で指導案検討会を全体で持ち，授業者の意図をふまえてから授業を参観する。
- ・授業記録，記録写真などの仕事は，各部会で受け持つ。
- ・授業後の協議会により，指導の考察を行い，教師の授業力の向上を図る。授業協議会は，ワークショップ型グループ協議を行い，積極的な意見交流をする。
- ・教材研究や授業を行う際は，積極的に部会内外で相談し合うとともに，外部講師・指導主事を招聘し指導助言をあおぐ。

③検証方法

- ・児童アンケートによる意識調査
- ・職員のセルフチェックシート
- ・条件作文の検証

7. 研究組織



8. 研究計画

期日		会名	内容	学年授業者
4月	6	研究推進委員会	今年度の研究について・研究内容の確認	
	11	校内研究会		
	28	校内研究会		
5月	6	研究推進委員会	計画訪問について 計画訪問指導案検討会 計画訪問「 」(5限)	
	18	校内研究会		
	30			
6月	15	校内研究会	計画訪問での学びの共有	
7月	21	校内研究会(部会) 中学年部会	[児童・職員アンケート①] 1学期の取り組みについて 成果と課題 要請訪問指導案検討	
8月		研究推進委員会	1学期の成果と課題について 2学期・要請訪問に向けて 要請訪問指導案検討会 2学期の取り組みについて	
	18	校内研究会		
9月				
10月	27	校内研究会	要請訪問「 ※未定 」(5限)	※ 全員
			授業交流(部会外での授業参観1本以上)	
11月	17	校内研究会	授業交流週間での学びの共有 条件作文の検証	
12月	23	校内研究会	[児童・職員アンケート②] 研究のまとめ部会読み合わせ	
	26	研究推進委員会	今年度の成果と課題 検証	
1月		研究推進委員会	今年度の成果と課題のまとめ 3学期の取り組みについて	
2月		研究推進委員会	成果と課題・次年度に向けて	
3月		研究推進委員会	次年度に向けて	
		校内研究会		